

ワークショップ

下伊那の宗教文化ネットワーク

—松下千代と松尾多勢子を中心に—

報告 1

「松尾多勢子のネットワーク 歌合わせ・勤王運動・周旋活動の場面」

アン・ウォルソールさん
(カリフォルニア大学アーバイン校名誉教授)



報告 2

「不二道の信者ネットワークと 松下千代」

宮崎ふみ子さん
(恵泉女学園大学名誉教授)

コメント：粟谷真寿美さん (飯田市歴史研究所市民研究員)
竹村雄次 (飯田市歴史研究所特任研究員)

- 日 時：2021年12月18日(土) 9:00~14:00
- 主 催：飯田市歴史研究所
- 会 場：飯田市役所 C棟3階会議室
- 資 料 代：300円 ※オンラインでのリモート参加は無料
- 参加方法：①会場での受講 (定員40名)
②ご自宅などのパソコンから受講 (オンライン参加) のどちらか
- 申込方法：12月16日 (木) までに電話(0265-53-4670)・
FAX(0265-21-1173)・メール(iih@city.iida.nagano.jp)の
いずれかでお申込み下さい

※当日の昼休みは短時間 (30分) となりますので、軽食などをお持ちいただくことを
お勧めします。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、発熱や咳の症状のある方は会場での参加をご遠慮ください。
また、感染状況により、開催日の1週間前に会場開催の実施の可否を判断します。

下伊那の宗教文化ネットワーク

—松下千代と松尾多勢子を中心に—

松尾多勢子は、文化8（1811）年、山本村（現・飯田市山本）で生まれました。彼女は飯田城下の福住清風などから和歌を学び、これに傾注していきます。また、19歳で伴野村（現・下伊那郡豊丘村伴野）の松尾元珍と結婚し、家事と育児に勤しみますが、国学に出会い、平田篤胤の没後門人となり、文久2（1862）年、52歳で幕末の京都に単身上り、尊王攘夷運動に身を投じました。その中では、国学の仲間のみならず、維新の志士や岩倉具視などとも関係をもつことになりました。

一方、松下千代は、寛政11（1799）年、飯田城下伝馬町で生まれました。15歳で婿養子の治兵衛と結婚、その後、池田町（現・飯田市通り町2丁目）に分家し、文政10（1827）年に遠州の若い商人の教えをうけ「不二道」に入信します。不二道とは、富士信仰に基づく民間の宗教運動ですが、千代は信州の信者たちのリーダー（世話人）となり、様々な奉仕活動を行い、布教を進めました。また、彼女は、8回の富士参詣に加え、各地の世話人と連絡を取り合うため、江戸や京都など広い範囲を旅しました。

今回のワークショップでは、『たをやめと明治維新 松尾多勢子の反伝記的生涯』（ぺりかん社、2005年）の著者アン・ウォルソール氏と、これまで不二道や松下千代の研究に取り組まれてきた宮崎ふみ子氏をお招きし、松尾多勢子と松下千代という、同時代に活躍した2人の女性に光をあて、彼女たちがとり結ぶネットワークという視点から、飯田・下伊那における江戸時代後期～明治維新时期の宗教・思想・文化と地域社会との関係、その中の女性の位置などについて考えます。

報告者プロフィール

アン・ウォルソールさん（カリフォルニア大学アーバイン校名誉教授）

アメリカ合衆国ワイオミング州生まれ。1979年、シカゴ大学で日本史の博士号取得。カリフォルニア大学アーバイン校歴史学科教授などをつとめる。専攻は日本近世民衆史・女性史。著書に『たをやめと明治維新 松尾多勢子の反伝記的生涯』（ぺりかん社、2005年）がある。

宮崎ふみ子さん（恵泉女学園大学名誉教授）

東京都生まれ。1979年、東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得満期退学。恵泉女学園大学人文学部教授などをつとめる。専攻は日本近世思想史・宗教史・女性史。論文に「近世末の民衆宗教における女性 —不二道の場合—」（『恵泉女学園大学紀要』第31号、2019年）などがある。

会場のご案内



【会場へのアクセス】
飯田駅から徒歩15分
飯田ICから車で15分